

原 著

エンパワメントを獲得するための教育モデルの構築

清村 紀子*

梶原 江美**

伊藤 直子***

鹿嶋 聡子**

小田日出子***

森 さとこ**

植田 浩司***

<要 旨>

本研究の目的は、学生がエンパワメントを獲得するための教育モデルを構築することにある。1983年～2005年を対象年にエンパワメント・看護教育をキーワードに抽出した文献を対象に内容分析で検討した。結果、文脈単位181、記録単位457を抽出した。最終的に、記録単位は、【自律】【説明責任能力】【コミュニケーション能力】の3要素に集約された。更に、記録単位の意味内容から、これら3要素に共通する「関係性」に着目した。構成主義に基盤を置く学習理論を中心に検討した結果、Independence, Reality, Communication Channel, Reflectionの抽象概念であるエンパワメントを具現化する学習環境4要素を確認した。学生の成長過程をホメオダイナミックスの原理で捉え、上述結果をもとに、The Nursing Education Model of Linking with Learning Theory- based Constructivism and The Principal of Homeodynamics (CH Education Model)を構築した。

キーワード：エンパワメント、構成主義、学習環境要素、教育モデル

I. 緒言

2001年3月、看護学教育のあり方に関する検討会（一次検討会）は、その報告書（「大学における看護実践能力の育成の充実に向けて」）の中で、看護実践能力育成の重要性を指摘し、学士課程のコアとして「看護実践を支える技術学習項目」を示した。看護実践能力は、看護ケアの基盤形成力・提供する看護ケアの技術力・問題解決能力から、ケアの場を調整する力に至るまでの広範囲に及び、生涯にわたり研鑽すべき能力である。従って、看護基礎教育においては、主体的に生涯学習できる学生の育成が第一義的な命題となる。

広辞苑によると、主体的とは「ある活動や思考などをなすとき、その主体となって働きかけるさま、他のものによって導かれるのではなく、自己の純粋な立場において行うさま」と定義される。主体的であるためには、自らの意志で考え、行動する力を有することが

前提となる。一方、英英辞書によると、Empowerとは「活動（＝行動）するために力や権限を与える」を意味し、エンパワメントはその名詞形を示す¹⁾。従って、主体的とは学生自らがエンパワメントを獲得する過程と捉えることができ、学生のエンパワーの方向性を高める学習環境の提供が、教育活動において重要となる。

そこで、本稿では、エンパワメントに関する国内外の文献の内容分析からエンパワメントの要素を抽出し、そこから抽象概念であるエンパワメントを具現化するための教育モデルを提示する。

II. 用語の操作上の定義

◆学習：学びの主体である学生が、環境との相互行為を通して、知識を獲得・理解することで、習慣、

* 西南女学院大学保健福祉学部看護学科 講師
 ** 西南女学院大学保健福祉学部看護学科 助手
 *** 西南女学院大学保健福祉学部看護学科 教授

概念体系、認知構造などの内的過程の獲得、組織化、再組織化を含む新しい行動様式の意味を見出していくプロセス

- ◆教育：学生のエンパワメントが高まり、行動に価値ある変化をもたらすための支援
- ◆エンパワメント：学生が、自らの顕在・潜在する力を発揮して、主体的に学習していく力

III. 研究目的

本研究の目的は、学生がエンパワメントを獲得するための教育モデルを構築することにある。

IV. 研究デザイン

1. 研究方法

- ①エンパワメントに関する文献をレビューし、内容分析でエンパワメントの構成要素を抽出する
- ②抽出された構成要素について検討し、エンパワメントを具現化する概念を明らかにする
- ③以上の結果から教育モデルを構築する

2. 分析対象

先行文献は、医中誌Web及びPub-Medを検索エンジンに、1983年～2005年間で検索した。

「Empowerment (エンパワメント)」「Nursing Education (看護教育)」をキーワードとし、原著・総説(医中誌Web)、Clinical or Randomized Controlled Trial・Editorial・Review・Meta-Analysis (Pub-Med)の条件下で抽出した文献を分析対象とした(表1、表2)。

3. 分析方法

1) 内容分析の手順

分析対象の文献は、クラウス・クリッペンドルフ⁴⁶⁾の内容分析を参考に、以下の手順で整理した。

①記録単位(サンプリング単位の中で、別々に分析可能な部分)を決定する、②文脈単位(記録単位を特徴づけるシンボル素材の範囲を記述したもの)を決定する、③意味内容の類似性に従って分類し、カテゴリを反映したネームをつける、④カテゴリに分類された記録単位数を算出する、⑤内容分析した結果は、研究者間の討議で妥当性を確認する

2) 決定した各単位

本研究は、以下のように各単位を決定した。

①サンプリング単位は、文献検索で抽出した44の内外の文献とする、②文脈単位は、Empowerment (orエンパワメント)、Empower (orエンパワー)、Empowering (orエンパワーすること)の単語を含む文章とする、③記録単位は、文脈単位に記載されるエンパワメントの内容を示す形容詞を含む最小形の叙述句とする。

V. 結果

全ての文脈単位数は181で、そこから抽出した記録単位数は457であった。

表3には、内容分析の対象となる文脈単位数、及びそこから抽出した記録単位数について、文脈単位の内容別に整理したものを示す。文脈単位が示す内容は、①エンパワメントの定義に関するもの、②エンパワメントの要素・焦点に関するもの、③エンパワメントの成果に関するもの、④その他、の4つに分類された。この中で、③エンパワメントの成果に関するものは、実践と教育に分別された。

記録単位を意味内容の類似性に従って分類したところ、【自律性】【説明責任能力】【コミュニケーション能力】の3つのカテゴリが抽出されたところで飽和状態となった。表4には、3つのカテゴリ(エンパワメントの構成要素)とそれを構成するサブカテゴリ及び記録単位数を、表5にはサブカテゴリを構成する記録単位の一例を示す。

1. エンパワメントの構成要素

*ゴシック体は記録単位を示す

1) 自律性

【自律性】の記録単位数は264で、16のサブカテゴリから構成され、主として以下に示す3つの側面を包含していた。①自己の内面に関するもの、②他者との関係性の中での自己のあり方に関するもの、③現実社会を生きる自らのあり方に関するもの。

自己の内面に関するものには、<内的要素><前向きな自己概念><強さを持つ><自律><パワーを獲得する><開放する><責任を持つ><自立する><自己を見つめる><強化する>が含まれる。【自律性】の23.5%を占める<内的要素>は、柔軟性を持つ、創造性を有する、公平な見解を持つ、成し遂げられると

いう内的経験を持つ、生涯学習できる、問題解決能力を持つ、適切な技術・知識を有する、状況への気づきを持つ、といった項目から構成されていた。また、【自律性】の19.7%を占める<前向きな自己概念>は、自己を尊重する、前向きである、可能にする、自信を持つ、自分の価値を認識する、自己実現する、満足する、望む結果を得る、できるという思い、といった項目で構成されていた。

他者との関係性の中での自己のあり方に関するもの

には、他者を見つめ受け入れるなどからなる<他者を認める>2.3%、あらゆる人の意見を尊重するなどからなる<違いを尊重する>1.5%が含まれる。

現実社会を生きる自らのあり方に関するものには、新たな路を開拓するなどからなる<路を切り拓く>20.1%、変化の過程・劇的な過程など様々なプロセスの状況を示す記録単位からなる<過程を歩む>10.2%、他者の権利を侵害しない統制や変革的なリーダーシップからなる<自身や周囲を統制する>3.4%、

表1：分析対象の国内文献

著者	テーマ	Resource
近田敬子 ²¹⁾	看護のエンパワメントを育てる教育	看護管理、7 (1)、34-37、1997
Liston Ellen M. ³⁾	看護のエンパワメントとサポートシステムの発展	看護、49 (14)、16-33、1997
杉浦由美子 ⁴⁾	病棟のエンパワメント「ありのまま」を見つめて	神奈川県立看護教育大学校看護管理論文集録10回、73-77、1999
上田幸子 ⁵⁾	更年期女性への保健指導を課題とした授業展開の教育効果 ヘルスプロモーション・エンパワメントの観点から	看護教育、41 (4)、286-291、2000
松木光子 ⁶⁾	私にとっての看護の3大課題 (1) QOL、ヘルスプロモーション、 エンパワメント、(2) 看護の情報化、(3) リスクマネジメント、 教育、周辺環境の整備	看護学雑誌、64 (12)、1088、2000
宮本真己 ⁷⁾	看護場面の再構成による臨床指導 エンパワメント技法としての再構成法	精神科看護、114、59-66、2002
中島信恵 ⁸⁾	保健婦としての自分をエンパワーするコツ 研修で学んだことを活かすコツ	保健婦雑誌、57 (12)、952-955、2001
福本久美子 ⁹⁾	保健婦としての自分をエンパワーするコツ 勉強会や研修会を組織し、軌道にのせるコツ	保健婦雑誌、57 (12)、956-958、2001
田中美恵子、 菅原とよ子、 若狭紅子他 ¹⁰⁾	当事者による精神看護学の講義から学生は何を学んだか 「語る主体」としての当事者との出会い	東京女子医科大学看護学部紀要、5、67-72、2003
佐藤悦子、 千田みゆき、 坂田由美子他 ¹¹⁾	健康学習の体験を通して得られた看護学生の自己効力感に関する 研究	山梨県立看護大学紀要、5、31-40、2003
野嶋佐由美 ¹²⁾	家族看護学の可能性と課題 実践の変革に焦点を当てて	家族看護、1 (1)、6-17、2003
大賀淳子 ¹³⁾	多様性をめざした精神看護学実習 訪問看護実習の意義	大分看護科学研究、4 (2)、48-52、2003
篠田征子、 両羽美穂子、 小澤和弘他 ¹⁴⁾	“Community as Partner” から看護職の役割を考える	岐阜県立看護大学機能看護学講座 教育と研究、1 (1)、64-72、2003
田島佳子、 高橋照子、 藤村龍子他 ¹⁵⁾	看護基礎教育における看護技術及び認知領域面の教育のあり方に 関する研究	日本看護学教育学会誌、13 (2)、81-192、2003
三宅はつえ ¹⁶⁾	母性看護 母と子をエンパワーする周産期ケア 妊娠・出産をキーワードにした女性のエンパワメント	看護、56 (4)、29-31、2004
中谷千尋、 森川三郎、 野澤由美他 ¹⁷⁾	精神障害当事者が参加する授業の成果 授業終了後の学生のレポートから	山梨県立看護大学短期大学部紀要、9 (1)、49-60、 2004
東島裕紀 ¹⁸⁾	在宅脳血管障害者の介護者のQOLに関する文献の検討	神奈川県立保健福祉大学実践教育センター看護教育研 究集録、29、250-257、2004
大池明枝 ¹⁹⁾	グループワークにおける「話し合い」で学生が体験したもの	日本看護学会論文集、看護教育36、 323-325、2005
加藤重子 ²⁰⁾	ラベルワークによる“組織的な参画の場づくり”支援 リーダー研修の実践と考察	日本看護福祉学会誌、10 (1)、98-99、2004
松尾美穂 ²¹⁾	認定看護師交流会のノウハウ	糖尿病ケア、2 (4)、445-448、2005
吉田百合子 ²²⁾	糖尿病療養援助のコツ	糖尿病ケア、2 (5)、484-486
山下貴美子、 伏見正江、 森越美香他 ²³⁾	当事者参加授業を発展させるための取り組み 母性看護学における当事者参加授業の学習効果	山梨県立看護大学短期大学部紀要、10 (1)、31-43、 2005
山田恵己、 櫻井弓子、 小山千秋 他 ²⁴⁾	SSTの手法を使ってエンパワメントする	精神看護、8 (5)、60-65、2005
錦戸典子 ²⁵⁾	職場のメンタルヘルス対策における産業間誤植の役割と活用可能 性 中小規模を含む事業場の主体的取り組みの推進に向けて	産業精神保健、13 (4)、243-250、2005
杉野美恵、 松本明子、 有村奈津子 他 ²⁶⁾	エンパワメントアプローチを看護師へ教育した効果 化学療法看護の充実を目指して)	日本看護学論文集：成人看護II、36号、 42-44、2005

影響を及ぼす変化をもたらすなどからなる<変化をもたらす>3%、が含まれる。

2) 説明責任能力

【説明責任能力】の記録単位数は25で、専門家としての実践的行動をとるといった職務上の任務をしめす項目からなる<責任を伴う行為>68%、説明責任を果たすからなる<説明責任>12%、貢献を周囲から認められる、建設的に説得できるなどの項目からなる<周囲からの認知を得る>12%、道徳的行動が取れ

る、モラルを守るなどからなる<倫理的行動>4%、<フィードバックする>4%、の5つのサブカテゴリから構成される。

3) コミュニケーション能力

【コミュニケーション能力】の記録単位数は168で、個々人・グループ・コミュニティでのダイナミックな相互作用、情報を交換するなどからなる<やりとりをする>68.5%、人と人とのつながりをもつ、結束を強めるなどの項目からなる<つながりをもつ>31.5%の

表2：分析対象の海外文献

著者	テーマ	Resource
Siu HM, Laschinger HK, Vingilis E ²⁷⁾	The effect of problem-based learning on nursing student's perceptions of empowerment	J Nurs Educ. 44(10), 459-469, 2005
Chambers C, Alexis O ²⁸⁾	Creating an inclusive environment for black and minority ethnic nurses	Br J Nurs. 13(22), 1355-1358, 2004-2005
Peter E, Lunardi VL, Macfarlane A ²⁹⁾	Nursing resistance as ethical action; literature review	J Adv Nurs. 46(4), 403-416, 2004
LeCount J ³⁰⁾	Education, empowerment, and elderly adults-enhancing nursing expertise in the long-term care setting	J Gerontol Nurs. 30(3), 6-13, 2004
Ogilvie L, Allen M, Laryea J et. al. All ³¹⁾	Building capacity through a collaborative international nursing project	J Nurs Scholarsh. 35(2), 113-118, 2003
Leyshon S ³²⁾	Empowering practitioners; an unrealistic expectation of nurse education?	J Adv Nurs. 40(4), 466-474, 2002
Buckley J ³³⁾	Holism and a health-promoting approach to palliative care	Int J Palliat Nurs. 8(10), 505-508, 2002
Hawks JH ³⁴⁾	Empowerment	Urol Nurs. 20(3), 175, 2000
Espeland K, Shanta L ³⁵⁾	Empowering versus enabling in academia	J Nurs Educ. 40(8), 342-346, 2001
Des Jardin KE ³⁶⁾	Political involvement in nursing-education and empowerment	AORN J. 74(4), 467-475, 2001
Kevern J, Webb C ³⁷⁾	Focus groups as a tool for critical social research in nurse education	Nurs Educ Today, 21(4), 323-333, 2001
Wade GH ³⁸⁾	Professional nurse autonomy ; concept analysis and application to nursing education	J Adv Nurs. 30(2), 310-318, 1999
Piper SM, Brown PA ³⁹⁾	Psychology as a theoretical function for health education in nursing empowerment or social control?	Nurse Educ Today, 18(8), 637-641, 1998
Boland CS ⁴⁰⁾	Parish nursing ; Addressing the significance of social support and spirituality for sustained health-promoting behaviors in the elderly	J Holist Nurs. 16(3), 355-368, 1998
Piper SM, Brown PA ⁴¹⁾	The theory and practice of health education applied to nursing; a bi-polar approach	J Adv Nurs. 27(2), 383-389, 1998
Wolf KA, Goldfader R, Lehan C ⁴²⁾	Women speak; Healing the wounds of homelessness through writing	N HC Perspect Community, 18(2), 74-78, 1997
Roberts SJ, Chandler G ⁴³⁾	Empowerment of graduate nursing students; a dialogue toward change	J Prof Nurs, 12(4), 233-239, 1996
Rodwell CM ⁴⁴⁾	An analysis of the concept of empowerment	J Adv Nurs, 23(2), 305-313, 1996
Chavasse JM ⁴⁵⁾	New dimensions of empowerment in nursing and challenges	J Adv Nurs, 17(1), 1-2, 1992

2つのサブカテゴリから構成される。

2. 3つの構成要素の共通性

抽象概念であるエンパワメントは、現段階では明確な定義は見当たらない。また、学際分野で様々に用いられているため、その意味は広義にわたり、エンパワメントを獲得するための方法を具現化する困難さがここに存在する。今回の検討から、本研究が定義した“学生が、自らの顕在・潜在する力を発揮して、主体的に学習していく力”とは、【自律性】、【説明責任能力】、【コミュニケーション能力】を示すことが明らかになった。

エンパワメントを獲得するとは、自律性・説明責任能力・コミュニケーション能力全てを統合的に身につけることを意味する。従って、自律性・説明責任能力・コミュニケーション能力を統合的に獲得するための具現化できる手段が必要となる。

各カテゴリを構成するサブカテゴリ及び下位の記録単位の意味をできる限り忠実に解釈すると、【自律性】とは、環境との関係性の中で、自らの内面の成長や他者の成長を追求することで、現実の社会を生き抜き、進むべき路を切り拓くための力を獲得すること、と解釈できる。また、【説明責任能力】とは、自らの考え、発言、行動について表明することで環境との関係性における責任を果たすこと、と解釈できる。さらに、【コミュニケーション能力】とは、環境とつながりを持ち、やりとりすることで関係性を築き、現実社会を生き抜く力を獲得すること、と解釈できる（表4）。

以上のように、【自律性】、【説明責任能力】、【コミュニケーション能力】というエンパワメントの構成要素の意味内容は、いずれも環境との「関係性」を前提とするものであることから（図1）、「関係性」に着目すれば、自律性、説明責任能力、コミュニケーション能力を育むことができる、との仮説が成り立つ。

表3：文脈単位の内容別にみた文脈単位の数と記録単位の数

記録単位が抽出された文脈単位の内容	文脈単位数	記録単位数
Empowerment の定義に関するもの	37	134
Empowerment の要素・焦点に関するもの	41	119
Empowerment の成果に関するもの	教育に関するもの	35
	実践に関するもの	20
その他	48	69
計	181	457

表4：内容分析から得られたカテゴリとそれを構成するサブカテゴリ

カテゴリ		
自律性	説明責任能力	コミュニケーション能力
意味		
環境との関係性の中で、自らの内面の成長や他者の成長を追及することで、現実の社会を生き抜き、進むべき路を切り拓くための力を獲得すること	自らの考え、発言、行動について表明することで、環境との関係性における責任を果たすこと	環境とつながりを持ち、やりとりすることで関係性を築き、現実社会を生き抜く力を獲得すること
サブカテゴリ：記録単位数 (%)		
内的要素： 62 (23.5) 路を切り拓く： 53 (20.1) 前向きな自己概念： 52 (19.7) 過程を歩む： 27 (10.2) 強さを持つ： 15 (5.7) 自身や周囲を統制する： 9 (3.4) 変化をもたらす： 8 (3.0) 自律： 7 (2.6) パワーを獲得する： 6 (2.3) 他者を認める： 6 (2.3) 開放する： 5 (1.9) 責任を持つ： 4 (1.5) 違いを尊重する： 4 (1.5) 自立する： 3 (1.1) 自己を見つめる： 2 (0.8) 強化する： 1 (0.4)	責任を伴う行為： 17 (68) 説明責任： 3 (12) 周囲からの認知を得る： 3 (12) 倫理的行動： 1 (4) フィードバックする： 1 (4)	やりとりする： 115 (68.5) つながりをもつ： 53 (31.5)
計 264 (100)	計 25 (100)	計 168 (100)

3. 「関係性」に着目した概念 “構成主義

(Constructivism)” とそれを基盤とする学習理論

構成主義もしくは構築主義と呼ばれる概念は、教育分野だけでなく、社会学、心理学、その他人文社会科学の領域で、従来のアプローチに変わる根本的な方向性を示す哲学として広がってきた⁴⁷⁾。教育分野での構成主義は、ピアジェ、ヴィゴツキー、デューイが見直される中で注目されるようになった⁴⁸⁾。構成主義は、ある特定の理論をさすのではなく、基本的考え方を共有する理論や実践の総体であると捉えられ、構成主義では、人が世界と関わる中で現実が形成されるとの立場をとる⁴⁹⁾。構成主義の明確な定義はないが、物事に対する理解の仕方は置かれる歴史や文化に強く依存するという基本的前提を共有できる理論や実践の総体をさすものと定義できる⁴⁹⁾。

従来の学習形態は、実存主義や客観主義に基盤を

置く。教員により系統的に構成された知識は、低レベルから高レベルへと階層構造を段階的に学習者である学生に教授されることで、効率的に習得される。従って、知識は教員から学生へと転移されるものと捉えられる。一方、教育分野における構成主義の共通する前提は、①知識は環境との相互作用により構築される、②ものごとの理解は置かれる環境に依存する、の2点である。知識そのものには意味はなく、置かれる状況との関係性の中で意味を持ち、知識に意味を見出していく作業が理解であると解釈される。

構成主義の代表的な学習理論としては、ピアジェの均衡化モデル、デューイの問題解決思考、ヴィゴツキーの発達最近接領域 (ZPD) が挙げられる。ピアジェは、主体である学習者は、それまでに獲得した知識を基に、環境 (客体) に働きかけ、主体と客体の相互作用によるダイナミックな関係の中で形成される

表5：カテゴリ、サブカテゴリを構成する記録単位の内容例

カテゴリ	サブカテゴリ	記録単位の内容例
自律性	内的要素	柔軟性を持つ、創造性を有する、公平な見解を持つ、成し遂げられるという内的経験を持つ、生涯学習できる 問題解決能力を持つ、適切な技術・知識を有する、状況への気づきを持つ
	路を切り拓く	新たな路を開拓する、自分自身での方向付けする、自分の行動を自分で決める、役割遂行できる 限界を悟る、選択する、物事の意味を見出す、自分をよい方向へ導く、物事を発展させる
	前向きな自己概念	自己を尊重する、前向きである、可能にする、自信を持つ、自分の価値を認識する、自己実現する、満足する 望む結果を得る、できるという思い
	過程を歩む	変化の過程である、劇的な過程である、可能にする過程である、人々による過程である、発展的な過程である
	強さを持つ	変化をもたらす力、強さ、自分自身にもたらす力
	自身や周囲を統制する	自分自身をコントロールする、他者の権利を侵害しない統制、リーダーシップ行動、変革的なリーダーシップ
	変化をもたらす	影響を及ぼす変化をもたらす、変化を促進する、効果的な変化をもたらす
	自律する	
	パワーを獲得する	スキルや能力を獲得する、戦略的手腕を獲得する、人生におけるパワーを獲得する
	他者を認める	他者を見つめ受け入れる、他者の価値を認める、他者の効力を信じる、
	開放する	感覚を開放する、開放的である
	責任を持つ	自分自身への責任を持つ、他者への責任を持つ、決定することへの責任を持つ
	違いを尊重する	あらゆる人の意見を尊重する、自己と相手が異なることを知る、自己と他者の価値を尊重する
	自立する	地に足をつける、依存の最小化、自立の最大化
	自己を見つめる	自分を意識する、自分と向き合う
	説明責任能力	強化する
責任を伴う行為		専門家としての実践的行動をとる、専門家としての意識を持つ、専門性を発展させる
説明責任		説明責任を果たす
周囲からの認知を得る		貢献を周囲から認められる、建設的に説得できる、周囲に認めさせる力を持つ
倫理的行動		道徳的行動が取れる、モラルを守る
コミュニケーション能力	フィードバックする	
	やりとりする	個々人・グループ・コミュニティでのダイナミックな相互作用、情報を交換する、対話する、考えを共有する
	つながりをもつ	人と人とのつながりをもつ、結束を強める、相互理解する、協調する、共同する、組織化する、参加する

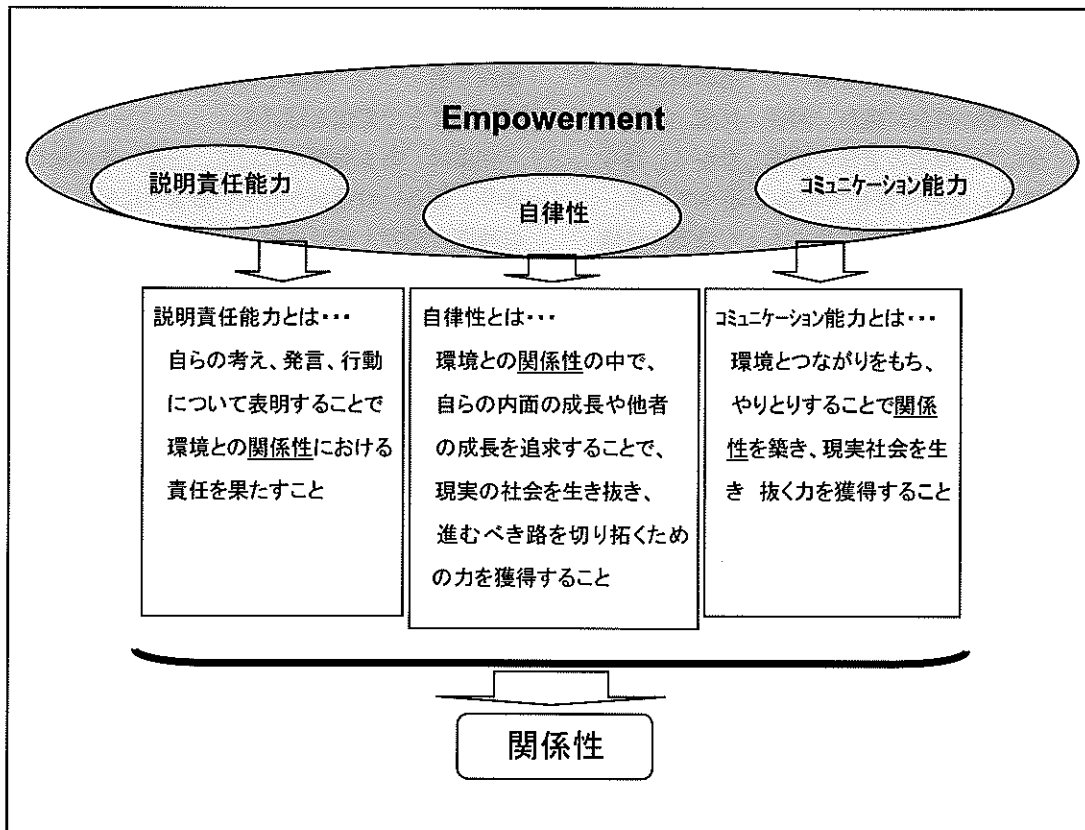


図1：Empowermentの3つのカテゴリの意味内容からの共通性

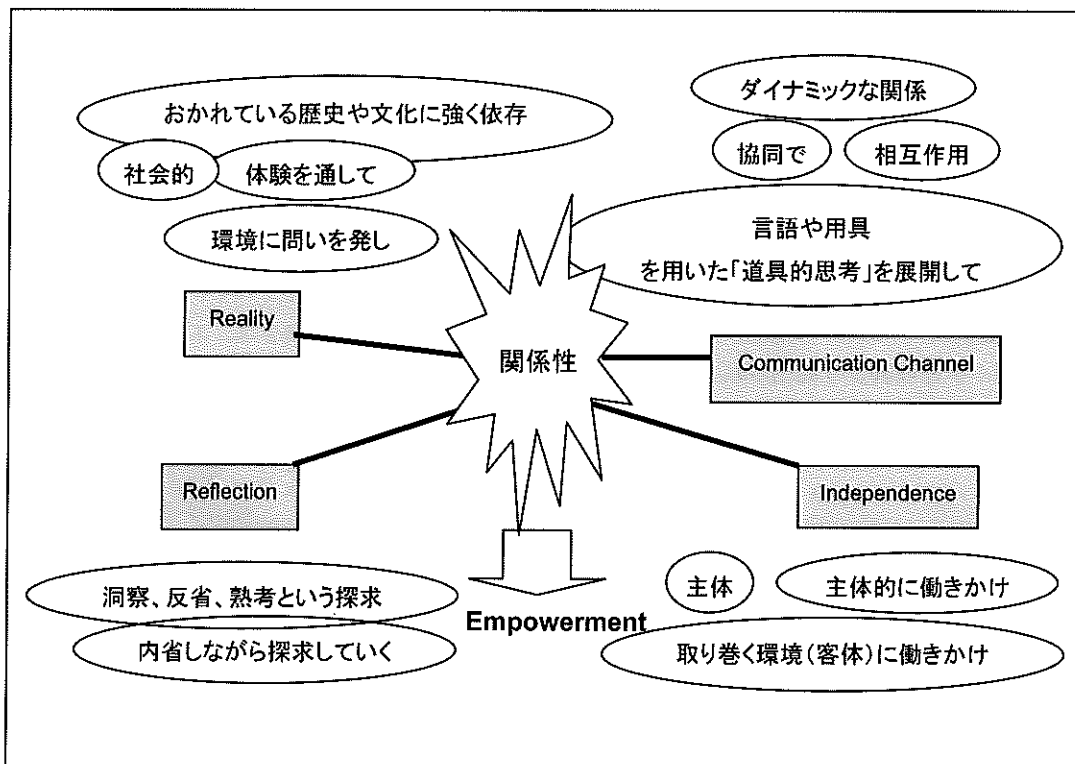


図2：構成主義の学習環境要素の抽出とEmpowermentとのリンク

と述べている。デューイは、人は環境に主体的に働きかけ、内省しながら探求していく存在で、学習者は環境に問いを発し、言葉や用具を用いた「道具的思考」を展開して、問題の解決に挑み、洞察、反省、熟考という探求を通して、環境の意味を構成しながら、自らの経験を再構成していく存在であると述べている。ヴィゴツキーは、まわりの仲間や大人との会話や体験を通して、協同で意味を作り上げていくプロセスを得ることで、問題を解決するレベルが向上する、これが学びであると述べている。

構成主義の前提や定義、及び上述の理論の示す言語からは、いくつかのキーワードが抽出でき、さらにそのキーワードには共通した意味内容が含まれる(図2)。本研究では、「主体」「主体的に働きかけ」「取り巻く環境(客体)に働きかけ」といったキーワードからは、様々な影響を受ける環境の中にあつて、その前提として自らが自主独立した存在であることを表わすIndependence、「置かれている歴史や文化に強く依存」「社会的」「体験を通して」「環境に問いを発し」からは、物事の本質は常に現実の中に存在することを表わすReality、「ダイナミックな関係」「協同で」「相互作用」「言葉や用具を用いた道具的思考を展開して」からは、環境の中に含まれる様々な資源を受け取るためのあらゆる分野・領域に開かれたルートを表わすCommunication Channel、「洞察、反省、熟考という探求」「内省しながら探求していく」から、自らの言動・考えなどを自らの内面で振り返ることを通して自己成長していくことを表わすReflectionという4つの意味内容を抽出した。Independence、Reality、Communication Channel、Reflectionの4つの意味内容を示すものは、言わば構成主義の学習環境要素であると捉えることができる。4つの学習環境要素はいずれも「関係性」に着目した構成主義に基づく学習理論より抽出されたものであり、4つの学習環境要素、エンパワメントの3つの構成要素、いずれも「関係性」に帰着するものである。従って、エンパワメントという抽象概念を具現化できる学習環境要素は、Independence、Reality、Communication Channel、Reflectionであり、これらをプログラム展開することで、学生のエンパワメントは高められる、との仮説が成り立つ。

4. 学生の成長過程(図3)

ロジャーズは、看護の原理である、「相互性」「同時性」「らせん運動」「共鳴」という4つのホメオダイナ

ミックスの原理を著した⁵⁰⁾。時空連続体を定方向性に進む人間は、環境と同時的に相互作用をしながら複雑性を増しつつ、環境との共鳴の中で、パターンを獲得することで変化を遂げる。

学生は、ある局面において、一見、その場に留まったり、あるいは逆戻りしているように見えても、確実に時間、空間を成長に向かい進んでいる。成長過程における環境とは、社会状況、学習環境、Communityの文化といった学生を取り巻く全てをさす。学生は、環境と絶え間なくエネルギーを交換しながら、知恵や知識を獲得し複雑性(=混沌)を増していく。こうして習得した知恵や知識は、環境との関係性の中で意味が見出され、学生の経験を通して真の意味での理解へと変化していくものと捉えることができる。

5. 教育モデルの構築

以上を踏まえ、エンパワメントを獲得するための教育モデルThe Nursing Education Model of Linking with Learning Theory- based Constructivism and The Principal of Homeodynamics(以下、CH教育モデルと記す)を構築した(図4)。

CH教育モデルは、縦軸であるCompetencyと横軸である時間の中に時空間を移動する学生の位置座標が示される。学生の位置座標が時間経過の中で、より高いCompetencyに到達するために4つの学習環境要素が機能することを示す。学生の時空間での方向は、Empowerしていく方向と、習得すべきエンパワメントの構成要素を示す。学生は、教員、仲間、教育資源、他領域の学習内容、社会情勢などの環境と、常に(「同時性」)、相互作用しながら(「相互性」「共鳴」)、時に、時空間の中を行きつ戻りつしながら、同じ位置には留まらず定方向へと進んでいく(「らせん運動」)。この時、学生の進む定方向の向きは、エンパワメントを獲得で

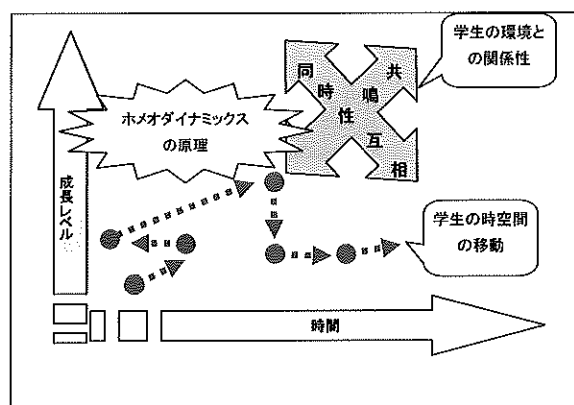


図3: 学生の「学ぶ」という成長過程

きるか否かによって決定されるものと解釈する。

VI. 考察

1. エンパワメントということ

エンパワメントは、そもそもパターンリズムに拮抗する概念として、社会的弱者が人権を獲得し、潜在的能力を発揮する社会や環境を変革する運動を支援する考え方として1960年代に提唱された⁵¹⁾。しかし、エンパワメントは、心理学、行動科学、疫学などの領域で複合的な概念として発展したため、その定義も立場により微妙に異なる。看護に初めてエンパワ

メントが登場するのは、1982年のアメリカ看護協会により⁵²⁾、以後は、個人が自己の生活をコントロールし、自己決定する能力を開発するプロセスを意味する概念として発展している。既存文献でのエンパワメントの捉え方は、主として①個人の内的過程の中で捉えたもの^{43) 53) 54)}、②環境との相互作用の中で捉えたもの^{55) 56)}、に区分でき、ある意味、こうした二元論的論点がエンパワメントという概念を曖昧にさせる要因ではないかと考えられる。

本研究で抽出されたエンパワメントの構成要素は、【自律性】【説明責任能力】【コミュニケーション能力】で、これらは、Worrellら⁵⁷⁾が示したエンパワメントの要素である、同僚との関係性・コミュニケー

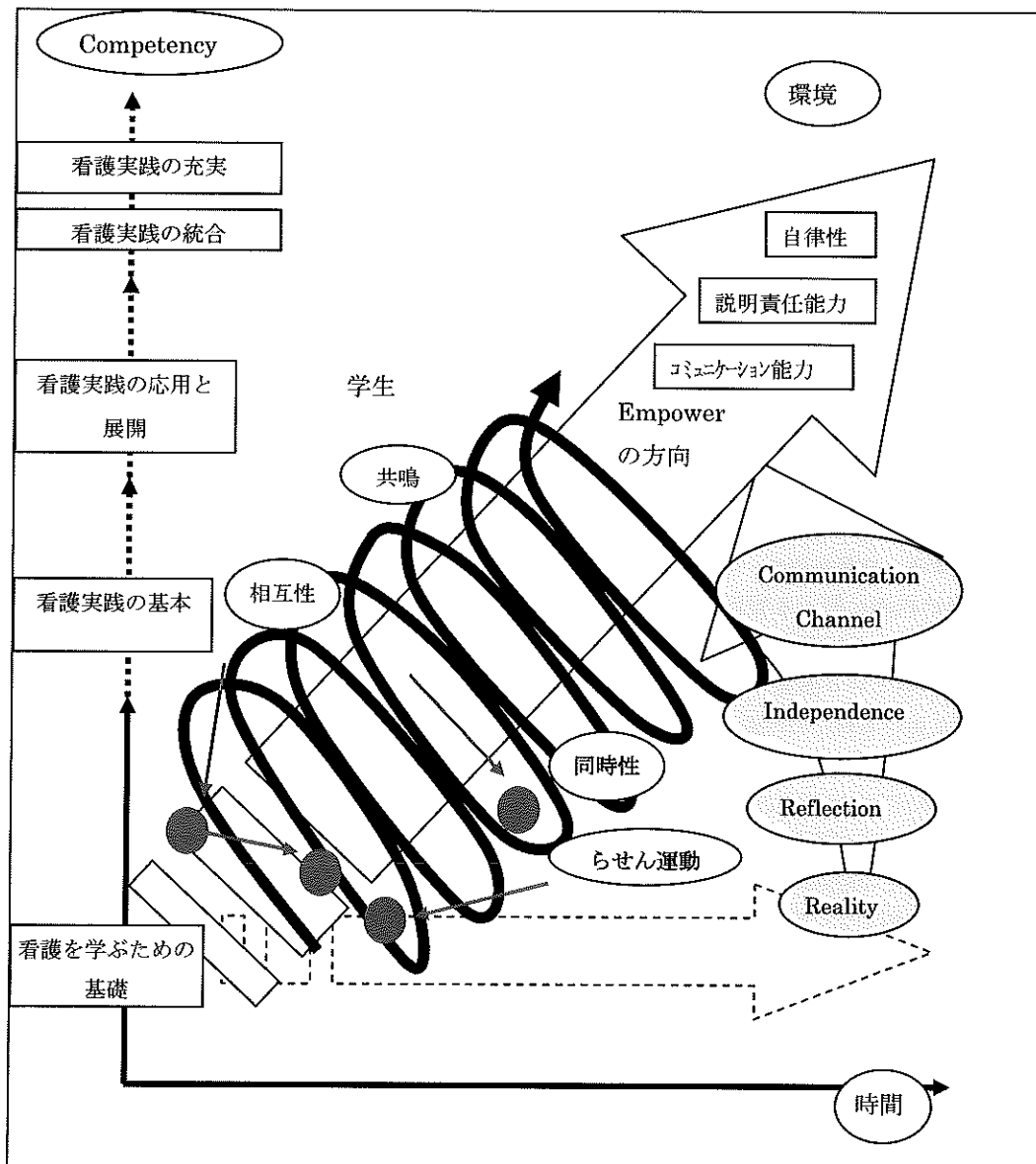


図4：The Nursing Education Model of Linking with Learning Theory-based Constructivism and The Principal of Homeodynamics (CH教育モデル)

ション・自律・説明責任と一致するところである。また、Gibson⁵⁸⁾が示したエンパワメントとの関連性が認められる、対処能力・相互支持・サポートシステム・コミュニティの組織化・個人の効力感や能力・自己への自信・自己尊重についても、3要素の中に集約されている。

【自律性】【説明責任能力】【コミュニケーション能力】は、それを構成するサブカテゴリとその意味内容から、いずれも個々人の内面に留まらない社会や他者との関係性を通して培われるものであることから、既存文献が主張する個人の内的過程や環境との相互作用のいずれの視点も網羅し、かつ関係性を更に強調する形で集約されたものとする。

1) 自律性

本研究の結果、【自律性】は、①自己の内面に関するもの、②他者との関係性の中での自己のあり方に関するもの、③現実社会を生きる自らのあり方に関するもの、の3つの側面のサブカテゴリから構成されていた。

エンパワメントについて、Conger⁵³⁾は、個々の価値を強化する行動と定義し、Roberts & Chandler⁴³⁾やBacker⁵⁴⁾は、激しい活動で、価値観、能力、成し遂げられるといった感覚をそこに関わる人に提供する内的な過程と述べている。Roberts & Chandler⁴³⁾、Conger⁵³⁾、Backer⁵⁴⁾らは、エンパワメントを個人の内的過程の中で捉えており、個人が自ら獲得するPowerに主眼が置かれる。

【自律性】のサブカテゴリを構成する記録単位は、自分の価値を認識する、自信を持つ、できるといふ思い、といった自己の内面に関する項目を含むことから、個々の価値を強化する行動⁵³⁾、できるといふ感覚⁴³⁾、成し遂げられるという感覚⁵⁴⁾は、本研究では【自律性】の要素における自己の内面に関するものとして現れるものとする。

【自律性】は、単に自己の内面に関するものだけでなく、サブカテゴリとして<他者を認める><違いを尊重する>など、他者との関係性における自己のあり方、更には<路を切り拓く><過程を歩む><自身や周囲を統制する><変化をもたらす>といった現実社会を生きる自らのあり方に関するものを含み、ここに本来の【自律性】の意味があるものとする。

2) 説明責任能力

McWhirter⁵⁵⁾やCampbell⁵⁶⁾は、個々人と環境との相互の関係性を示す事象の中でエンパワメントを捉える。McWhirter⁵⁵⁾やCampbell⁵⁶⁾の主張は、本研究で

は、【説明責任能力】、及び【コミュニケーション能力】として抽出された意味に包含されると考える。

McWhirter⁵⁵⁾は、エンパワメントは、①人生の状況の中で、Powerのダイナミックさに気づく、②人生を超えて、分別あるコントロールを獲得するためのスキルや能力を発見する、③他者の権利を侵すことなくコントロールを働かせる、④自身のコミュニティの中で他者のエンパワメントをサポートする、といったプロセスであると述べている。すなわち、Powerを獲得する意味を理解し、他者からの承認の中で、個々の自律と能力を活用し、課題を解決すべく役割を果たすことの重要性がここに存在する。【説明責任能力】を構成するサブカテゴリである<倫理的行動><責任を伴う行為>は、Powerを獲得する、あるいは獲得した上での行動をあらわし、<説明責任><周囲からの認知を得る><フィードバックする>は、他者からの承認を得る重要性を示している。

3) コミュニケーション能力

Campbell⁵⁶⁾は、エンパワメントを内的なものとしながらも、他者との相互作用、過去の経験、環境からの影響に言及した上で、エンパワメントの核を、植物の成長に欠かせない環境との関係を重視し「耕すこと」であると表現した。これらは、個々人と環境が互いに影響しながら、エンパワメントを獲得、強化していく過程において、個々人と環境との相互の関係性を示す事象の中でエンパワメントを捉えている。Campbell⁵⁶⁾の言及は、エンパワメントが環境との関わりを除外しては説明しきれないことを示すもので、【コミュニケーション能力】が単に情報伝達に留まらない意味を包含する<つながりをもつ><やりとりする>から構成されることは、Campbell⁵⁶⁾の主張と一致する。

2. CH教育モデル

看護において、社会的要求、専門的な活動の具現化など、学生には高い秩序だった思考が要求されるため、看護高等教育では、個々の学生に自己のエンパワメントの新たなレベルをもたらすことを約束しなければならない⁵⁹⁾。従って、質の高い専門的教育の役割とは、単に特別な知識や技術を学生に教授するものではなく、文化的な目的を有する社会性をもたらすパラダイムへと転換しなければならず、教育におけるエンパワメントには、社会的な存在価値を拡大する人間の改善にほかならない⁶⁰⁾ということが、前提として存在する。

一方、専門教育への批判として、Shor&Freire⁶¹⁾は、専門教育が、まず、存在する信念や価値、そしてある見解への否定的な考えを持つ能力を取り去ることで学生をDisempowerしていると懸念を示す。ここには、自律とエンパワメントにおける矛盾が存在し、エンパワメントにおける内省の重要性を示唆するものとする。教育的なエンパワメントの理論の多くは、入学してくる学生をPowerlessとみなすことから始めるため、学生の潜在能力が無視される危険性が存在する。こうした懸念に対し、Leyshon³²⁾は、エンパワメントという概念自身の柔軟性や内省の欠如で間違ったPowerをもたらすと危険性を指摘した上で、成功的にEmpowerすることでエンパワメントを獲得し、永続的に保有する個に到達すると強調する。

従来の学習形態は、順列的、階層的に構成され、一定方向の刺激と反応の関係性の中で展開される。これに対し、本研究が構築したCH教育モデルは、時間・空間・関係性の中で多重的に展開され、エンパワメントの獲得は、人間性と創造性を豊かにすることを含む。従って、教育活動は、学生のEmpowerの方向を時空間に広げるための支援として存在する。

構成主義は、学生が正しい、正しくないといった視点でなく、理解の結果としての知識を構築することを主眼とする⁶²⁾。知識は、学習者が自分自身のために、自分自身で構築しなければならず⁶²⁾、知識を構築することで、学生は理論や学問と一致した知識を維持していくことになる⁶³⁾。本研究が提案した構成主義に基盤を置く学習環境要素であるReality、Independence、Communication Channel、Reflectionは、学生自らが環境との関係性の中で、資源を活用しながら経験を重ね、知識を作り上げることを目指すもので、自律とエンパワメントにおける矛盾を乗り越え、Leyshon³²⁾が懸念する間違ったPowerをもたらす危険性についても、極力排除できるものとする。

VIII. 結語

本研究は、既存文献の内容分析を通して、エンパワメントの構成要素として【自律性】【説明責任能力】【コミュニケーション能力】の3つを抽出した。これら3要素に共通する「関係性」に着目し、構成主義とそれを基盤とする教育理論から、Independence、Reality、Communication Channel、Reflectionという学習環境要素を導き出し、これらを抽象概念であるエ

ンパワメントを具現化できる学習環境要素であると結論づける。

看護教育におけるエンパワメントは、自己決定できる学生を育み、学生個々が持つ力を発揮することを示し、教員を含む環境との協働なくして形成しないプロセスである。今後は、今回明確になった学習環境要素を具体的に展開し、その効果を評価、修正しながら、学生のエンパワメントを高めていく試みが必要である。

文献

- 1) Crowther J.: Oxford Advanced Learner's Dictionary Fifth edition, Oxford University Press, 1995
- 2) 近田敬子：看護のエンパワメントを育てる教育，看護管理，7(1)：34-37，1997
- 3) Liston Ellen M.：エンパワメントとサポートシステムの発展，看護，49(14)：16-33，1997
- 4) 杉浦由美子：病棟のエンパワメント「ありのまま」を見つめて，神奈川県立看護教育大学校看護管理論文集，10回：73-77，1999
- 5) 上田幸子：更年期女性への保健指導を課題とした授業展開の教育効果ヘルスプロモーション・エンパワメントの観点から，看護教育，41(4)：286-291，2000
- 6) 松木光子：私にとっての看護の3大課題（1）QOL，ヘルスプロモーション、エンパワメント、（2）看護の情報化、（3）リスクマネジメント、教育、周辺環境の整備，看護学雑誌，64(12)：1088，2000
- 7) 宮本真己：看護場面の再構成による臨床指導エンパワメント技法としての再構成法，精神科看護，114：59-66，2002
- 8) 中島信恵：保健婦としての自分をエンパワーするコツ研修で学んだことを活かすコツ，保健婦雑誌，57(12)：952-955，2001
- 9) 福本久美子：保健婦としての自分をエンパワーするコツ勉強会や研究会を組織し、軌道にのせるコツ，保健婦雑誌，57(12)：956-958，2001
- 10) 田中美恵子、菅原とよ子、若狭紅子他：当事者による精神看護学の講義から学生は何を学んだか「語る主体」としての当事者との出会い，東京女子医科大学看護学部紀要，5：67-72，2003
- 11) 佐藤悦子、千田みゆき、坂田由美子他：健康学習の体験を通して得られた看護学生の自己効力感に関する研究，山梨県立看護大学紀要，5：31-40，2003

- 12) 野嶋佐由美：家族看護学の可能性と課題実践の変革に焦点を当てて。家族看護。1(1)：6-17, 2003
- 13) 大賀淳子：多様性をめざした精神看護学実習訪問看護実習の意義。大分看護科学研究。4(2)：48-52, 2003
- 14) 篠田征子、両羽美穂子、小澤和弘他：“Community as Partner” から看護職の役割を考える。岐阜県立看護大学機能看護学講座 教育と研究、1(1)：64-72, 2003
- 15) 田島佳子、高橋照子、藤村龍子他：看護基礎教育における看護技術及び認知領域面の教育のあり方に関する研究。日本看護学教育学会誌。13(2)：81-192, 2003
- 16) 三宅はつえ：母性看護 母と子をエンパワーする周産期ケア 妊娠・出産をキーワードにした女性のエンパワメント。看護。56(4)：29-31, 2004
- 17) 中谷千尋、森川三郎、野澤由美他：精神障害当事者が参加する授業の成果 授業終了後の学生のレポートから。山梨県立看護大学短期大学部紀要。9(1)：49-60, 2004
- 18) 東島裕紀：在宅脳血管障害者の介護者の QOL に関する文献の検討。神奈川県立保健福祉大学実践教育センター看護教育研究集録。29：250-257, 2004
- 19) 大池明枝：グループワークにおける「話し合い」で学生が体験したもの。日本看護学会論文集。看護教育。36：323-325, 2005
- 20) 加藤重子：ラベルワークによる“組織的な参画の場づくり”支援 リーダー研修の実践と考察。日本看護福祉学会誌。10(1)：98-99, 2004
- 21) 松尾美穂：認定看護師交流会のノウハウ。糖尿病ケア。2(4)：445-448, 2005
- 22) 吉田百合子：糖尿病療養援助のコツ。糖尿病ケア。2(5)：484-486, 2005
- 23) 山下貴美子、伏見正江、森越美香他：当事者参加授業を発展させるための取り組み 母性看護学における当事者参加授業の学習効果。山梨県立看護大学短期大学部紀要。10(1)：31-43, 2005
- 24) 山田恵己、櫻井弓子、小山千秋他：SST の手法を使ってエンパワメントする。精神看護。5(5)：60-65, 2005
- 25) 錦戸典子：職場のメンタルヘルス対策における産業間誤植の役割と活用可能性 中小規模を含む事業場の主体的取り組みの推進に向けて。産業精神保健。13(4)：243-250, 2005
- 26) 杉野美恵、松本明子、有村奈津子他：エンパワメントアプローチを看護師へ教育した効果 化学療法看護の充実を目指して。日本看護学論文集：成人看護II。36号：42-44, 2005
- 27) Siu HM, Laschinger HK, Vingilis E: The effect of problem-based learning on nursing student's perceptions of empowerment. J Nurs Educ. 44(10): 459-469, 2005
- 28) Chambers C, Alexis O: Creating an inclusive environment for black and minority ethnic nurses. Br J Nurs. 13(22): 1355-1358, 2004-2005
- 29) Peter E, Lunardi VL, Macfarlane A: Nursing resistance as ethical action; literature review. J Adv Nurs. 46(4): 403-416, 2004
- 30) LeCount J: Education, empowerment, and elderly adults-enhancing nursing expertise in the long-term care setting. J Gerontol Nurs. 30(3): 6-13, 2004
- 31) Ogilvie L, Allen M, Laryea J et. al: Building capacity through a collaborative international nursing project. J Nurs Scholarsh. 35(2):113-118, 2003
- 32) Leysdon S: Empowering practitioners; an unrealistic expectation of nurse education?. J Adv Nurs. 40(4):466-474, 2002
- 33) Buckley J: Holism and a health-promoting approach to palliative care. Int J Palliat Nurs. 8(10):505-508, 2002
- 34) Hawks JH: Empowerment. Urol Nurs. 20(3):175, 2000
- 35) Espeland K, Shanta L: Empowering versus enabling in academia. J Nurs Educ.40(8): 342-346, 2001
- 36) Des Jardin KE: Political involvement in nursing-education and empowerment. AORN J, 74(4):467-475, 2001
- 37) Kevern J, Webb C: Focus groups as a tool for critical social research in nurse education. Nurs Educ Today.21(4):323-333, 2001
- 38) Wade GH: Professional nurse autonomy ; concept analysis and application to nursing education. J Adv Nurs. 30(2): 310-318, 1999
- 40) Boland CS: Parish nursing ; Addressing the significance of social support and spirituality for sustained health-promoting behaviors in the elderly. J Holist Nurs. 16(3):355-368, 1998
- 41) Piper SM, Brown PA: The theory and practice of health education applied to nursing; a bi-polar approach. J Adv Nurs. 27(2):383-389, 1998
- 42) Wolf KA, Goldfader R, Lehan C: Women speak; Healing the wounds of homelessness through writing. N HC Perspect Community. 18(2):74-78, 1997
- 43) Roberts SJ, Chandler G: Empowerment of graduate nursing students; a dialogue toward change. J Prof nurs.12(4): 233-239, 1996

- 44) Rodwell CM: An analysis of the concept of empowerment. *J Adv Nurs*.23(2): 305-313, 1996
- 45) Chavasse JM: New dimensions of empowerment in nursing and challenges. *J Adv Nurs*.17(1):1-2, 1992
- 46) クラウス・クリッペンドルフ、三上俊司、椎野信雄、橋元良明訳：メッセージ分析の技法 「内容分析」 への招待、勁草書房、東京、2001
- 47) 上野千鶴子：構築主義とは何か、勁草書房、東京、2000
- 48) 佐藤学：教育方法学、岩波書店、東京、1996
- 49) 久保田賢一：構成主義パラダイムと学習環境デザイン、関西大学出版部、大阪、2004
- 50) ロジャーズ .M、樋口康子、中西睦子訳：ロジャーズ看護論：医学書院、東京、1997
- 51) Kieffer C.H.: Citizen empowerment: a developmental perspective, *Prevention Human Service*, Winter-Spring;3(2-3):9-36, 1983-1984
- 52) American Nurses Association Publications: Professionalism and the empowerment of nursing, G-157 :i-vi, 1-76,1992
- 53) Conger J.: Leadership; the art of empowering of others, *The Academy of Management Executives*,3,17-24, 1989
- 54) Backer B.A., George C.A.,Mason D.: Reflections on empowerment, *Nursing Leadership Forum*, 2(2),64-69,1996
- 55) McWhirter E.H.: Empowerment in counseling, *Journal of Counseling and Development*, 69, 222-227,1991
- 56) Campbell S.L.: Cultivating Empowerment in Nursing Today for a Strong Profession Tomorrow, *Journal of Nursing Education*, 42(9), 423-426, 2003
- 57) Worrell J.D., McGinn A., Black E., Holloway N., Ney P.: The RN-BSN student: developing a model of empowerment, *The Journal of nursing education*, 35(3):127-30,1996
- 58) Gibson C.H.: A concept analysis of empowerment, *Journal of Advanced Nursing*,16,354-361,1991
- 59) Glen S.: Towards a new model of nursing education, *Nurse Education Today* ,5,90-95,1995
- 60) Ellsworth D.: Why doesn't this feel empowering? Working through the repressive myths of critical pedagogy, *Harvard Educational Review*,59, 297-324,1998
- 61) Shor I. & Freire P.: What is the "Dialogical Method" of Teaching? , *Journal of Education*, 169(3):11-31,1987
- 62) Blais D.M.: Constructivism; a theoretical revolution in teaching, *Journal of Developmental Education*, 11(3), 2-7,1988
- 63) Floden R.: The role of rhetoric of changing teachers' belief, *Teacher and Teaching Education*, 1(1), 19-32,1985

Structuring an Education Model for Acquiring Empowerment

Noriko Kiyomura,

Emi Kajiwara,

Naoko Itou,

Satoko Kashima,

Hideko Oda,

Satoko Mori,

Kouji Ueda

<Abstract>

The aim of this paper is to structure an education model for students to obtain empowerment. Research articles from 1983 on assuming empowerment, and with keywords related to nursing education to 2005 were examined by content analysis. As a result, 181 context units were found, from which 457 record units were extracted.

Finally, the record units were divided into three areas [autonomy] , [accountability] , and [communications skills] .

Furthermore, it paid attention to "Relationship" as a common point from the semantic content of each record for these 3 elements, and constructivism was derived. As a result of having focused mainly on the learning theory based on the constructivism, independence, reality, communication channel, and reflection were described as elements of a learning environment which can embody empowerment as an abstract notion.

In addition, the growth process of students was interpreted based on the principles of homeodynamics, and then the Nursing Education Model of Linking with Learning Theory-based Constructivism and The Principal of Homeodynamics (CH Education Model).

Key words: empowerment, constructivism, the elements of learning environment, education model